

葡 萄 の 摘 心 試 験

大 崎 守*・横 尾 宗 敬*・河 瀬 憲 次*

OHSAKI, M., YOKOII, M. and KAWASE, K.
Severe Pinch on Campbell Early Grape.

緒 言

葡萄の摘心は開花前1週間頃に行えば、実止りをよくし果穂重を増す等のことから、又短梢剪定では側枝を揃える必要から普通軽い摘心は必要であるが、未だ必要以上の摘心が行われている所もある。筆者等はこの軽い摘心と強い摘心の果実に及ぼす影響を果実の糖度、酸度、果実硬度、着色、収穫期等の面から調べて

*九州農業試験場

みた。

実験材料及び方法

供試樹は九農試園芸部栽植の波状一文字整枝4年生の強勢なる Campbell Early 種6本で、3本宛2処理を行つた。即ち軽摘心区、強摘心区で軽摘心区は開花1週間前を目標とし5月14~18日間に、強い側枝から順次行い後放任し、強摘心区はこれ以後各腋芽について一葉摘心を2回行い後は萌芽を欠き取るように

した。本年の当部 Campbell Early 種の開花は5月21日に始まり、5月26日盛り、5月29日に終つた。

果実の調査は毎回各区より40粒宛採集し、糖度は検糖計により、酸度は約0.1N NaOHにて4倍に薄めた果汁を滴定し酒石酸に換算して果汁1l中のgm数で表わした。

果実硬度は普通のゼンマイ秤の上に横に乗せ平らな板で押して潰れるときの目盛を読んでkgで表わした。果色は着色度合を10段階に別け、10を完全着色として各果粒に着色に応じ1~10迄の数字を附しその平均を出しパーセントで着色度を表わした。

実験結果

摘心の結果強摘心区は本葉及び副梢葉11~12枚となり、軽摘心区ではこれ以外に長さ平均約50cmの副梢が5本位20~30cmのものが3~4本発生した。副梢の発生は先端と基部が早く5月13日より始まり5月下旬~6月上旬に側枝の付根から3-4-5節の所謂元の方から出た副梢が伸長最大となり、11-12-13節附近の所謂先の方から出た副梢は少し遅れ6月上中旬に伸長最大となつた。大部分の副梢は7月2日で伸長が止つたが、勢の良いものは7月下旬にも伸長盛期があり、7月29日で殆んど全部が一応伸長を停止した。なお側枝の節間伸長は5月13日に最大となり6月10日に止つた。

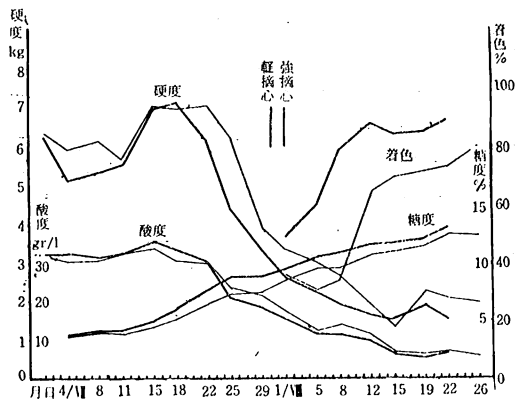
使用した各3本の葡萄樹の状況及び担荷房数は第1表の如くである。

果穂は側枝の勢に応じて1房つけるものと2房つけるものとあるがVéraison初期においては、すべて2

第1表 軽・強摘心処理各3本の担荷状態

項目	処理	軽摘心区	強摘心区
側枝総数		321本	330本
主枝先端伸長量		13.3m	12.9m
1房担荷側枝果穂	房数	108	106
	重量平均重	6,326匁 58.6匁	6,456匁 60.9匁
2房担荷側枝果穂	房数	193	244
	重量平均重	12,905匁 66.9匁	18,964匁 77.7匁
供試残骸	房数	52	57
	重量	1,155匁	1,989匁
収穫総計	房数	353	407
	重量	20,386匁	27,409匁

房のものが成熟の進むのが見られたが、収穫間際及びVéraison以前には、この傾向がまちまちであつたので、結果は1房と2房のものを平均し纏めて出した。軽摘心区、強摘心区の各調査項目の測定結果は第1図の如くである。



第1図 葡萄果実の時期的変化

最も顕著な差を示したものは、硬度と着色であつて硬度は軽摘心が7月18日に最高になり後急激に減少したのに対し、強摘心は7月22日に最高になり後急激に減少し始めた。即ち強摘心区のVéraisonが4日遅れたことになる。

着色は一番早いものが7月18日より始まつた。8月1日には軽摘心区49.5%に対し、強摘心区は35.25%で、軽摘心区を収穫した8月22日には軽摘心区は88.5%、強摘心区は73.0%であつて、収穫後の外観は強摘心区は驚く程悪かつた。

第2表 時期別収穫量

月日	項目	軽摘心区収量(匁)	強摘心区収量(匁)
8.	22	18,036	9,358
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
9.	1	2,350	4,706
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
計		20,386	27,409

糖度も生育期を通し軽摘心区が高く Véraison の頃で 2% 収穫時で 0.8% 高かった。

酸度は酸度最高の時（硬度最高の少し前）は強摘心区が低く Véraison になり酸が減少し出すと強摘心が収穫間際迄高かったが、収穫時には大体同じになった。

果径は収穫迄徐々に増加する。果径の軽摘心、強摘心による差は認め得なかつたが、粒重は僅かながら強摘心区の方が重かつた。

果穂重は第 1 表に見られる如く強摘心の方が重い。収穫時期は第 2 表の如くで軽摘心区は 8 月 22 日にその大部分を収穫し、残りを 8 月 26 日に収穫した。

強摘心区は 26 日より採り始め、9 月 6 日収穫を終つたが、その大半は 9 月に入つて収穫した。しかも 26

日収穫のものも少し早かつたように思われた。

果実の収量は強摘心区の方が高く、園全部は軽摘心であつたので、軽摘心区の 3 本を含めて 39 本と強摘心区 3 本との差を統計処理したところ 5% 水準で有意であつた。

考 察

強摘心は果穂重を大きくし従つて収量は増加するが品質を悪くし熟期が遅れるばかりでなく巾が広くなる。又収穫期には本葉は既に大半が破れ葉面積が極端に少くなるので、次年に及ぼす影響も大きいと考えられる。従つて摘心は花振いの調節、側枝の伸長調節に必要な最少限度に留めなければならないと考えられる。